

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 2月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4071602728		
法人名	有限会社 ケイテック		
事業所名	グループホーム 「仲間館 絆」		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市城島町内野 322番地の1 (電話) 0942-51-5552		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年2月7日	評価確定日	平成20年3月12日

【情報提供票より】(20年 1月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15 人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	耐火鉄骨	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	63歳	最高	107歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寺崎医院、藤吉内科医院、毛利歯科、小野眼科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

白壁土蔵を感じさせるような雰囲気建物で、広い敷地には畑があり利用者と一緒に季節の野菜作りを楽しむことができる。また、庭には動物(犬・豚)を飼育しており利用者と一緒に暮らし、面倒を見ていくことで、精神面の安定、心がなごむよう工夫されている。ホーム全体は掃除が行き届き清潔感が感じられ、共有部分は開放感があり利用者の方々が楽しい時間を過ごすことができる空間となっている。1階ロビーにはアンティークのイス、家具、小物などが備えられ、ホームとは掛離れた時間を過ごすことができる。年間行事の中には外泊できる計画が立てられ、昨年は利用者・職員全員参加で別府のホテルに一泊旅行を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、リビングの時計の位置や事故・ヒアリング報告書作成等であったが、職員全員で検討し取り組み改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に取組む中で改善への問題点があったことを評価しながら、今後の課題として前向きに取り組む姿勢が感じられたが、全職員が自己評価の内容を理解できることが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業所からの状況報告や意見交換が主な内容で、市の職員・自治会・民生委員・利用者・利用者家族等の参加により開催されている。しかし会議が不定期に開催されているので、2ヶ月に1回程度の開催が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	利用者一人ひとりの健康状態や活動内容、暮らしぶり等を記入した便りを家族に毎月郵送している。状態変化がある場合は、その都度電話で報告している。玄関に意見箱を設置しているが、苦情はなかなか言い出しにくいものであると職員は理解しており、意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。意見については、職員で協議し、改善に向けて迅速に対応するよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	玄関にお茶でもいかがですか?気軽に立ち寄り下さい。の看板を立て、地域の人たちにも気軽に訪問してもらえるよう工夫されている。また、地域の祭りや運動会など積極的に参加し、地域との交流を大事にしている。利用者と共に地域の草取りにも参加し、コミュニケーションを深め、ごく普通の近所付き合いが出来ている。災害時に地域と協力できるよう地域との合同避難訓練が実現できるよう取り組みを期待したい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	心こそ大切なれ、地域の一員として助けられたり 助けたり 輪を広めようは、利用者の尊厳、地域との連携、温かい雰囲気作りなどを具体的にわかりやすく表現した理念になっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	管理者、職員とも理念の意味を理解し毎朝、理念の唱和を行っており 日々のケアの中で常に話し合い、実践に取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており地域の行事やお祭りにも積極的に参加し交流を深めている。また地域の草取りにも利用者と共に参加している。お祭りなどのホームの行事にも地域の方が気軽に参加するなど地元の人々と交流する機会を持っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、管理者や職員が話し合い記載し前向きに取り組んでいるものの、一部の職員が評価の意義および理解ができていない。		全職員が評価の意義や目的を理解していく必要がある。改善点については、質の確保・向上がどのように進められたかを確認する為にも、改善シートを活用されることが望ましい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの状況報告や意見交換が主な内容で、市の職員・自治会・民生委員・利用者・利用者家族等が参加しているが、開催は不定期である。		運営推進会議を開催し改善内容や取り組み状況を報告し、運営推進会議で改善経過モニターしてもらったことにより、相乗効果が期待できるとともに地域との交流促進のために概ね2ヶ月に1回開催することが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関へは定期的な訪問を実施し、担当者との意見交換や研修等を通して関係作りに取り組んでいる。また何かあればすぐ相談に行っている。担当者の方も気軽に相談ののってくれアドバイスをしてくれる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する資料も用意され、職員及び家族の周知を図っている。現在、成年後見制度の活用も支援している。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に毎月1回の健康状態と活動内容、暮らしぶりの報告をしている。また、状態の変化時はその都度電話で報告している。金銭管理については預かり金で対応し、月1回領収書を添付して利用明細を送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見や苦情が言えるように、日頃からコミュニケーションを密に取るようにしている。また玄関には意見箱を設置し、意見集約に取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は異動や離職がない。離職の際は引き継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。また、新任職員との馴染みの関係作りがスムーズにできるよう取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用には事業所に適した人材を求めており、本人の能力を重視している為、性別や年齢等を理由に採用の対象から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々の職員の言葉遣いや行動等に尊厳を傷つけるようなことがあれば注意し、研修会やミーティング等で常に話し合いをしている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内、外の勉強会や研修会参加の機会を確保している。参加した際は施設内で伝達講習を行い職員全体の共有知識としているが、新任・現任職員の年間研修計画が作成されていない。</p>		<p>地域密着型サービスの質は職員の質により成り立っている。段階に応じて新任、現任職員の年間計画を作成し、全職員が共有し質の向上が共にできるようなシステム作りを期待したい。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との交流はないが、久留米市内でのグループホーム連絡協議会や市主催の研修会等には積極的に参加している。</p>		<p>地域の同業者と情報交換や相互訪問などを行い、交流する機会を通じて、新たな発見や気づきの機会を設け、サービスの質の向上に向けての取組みを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前、利用者とは必ず面会し、家族とも十分話し合う。またホーム内を見学していただいたり、希望があれば体験入所ができるようしており、利用者や家族が納得した上で入居できるように支援している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と一緒に過ごす中で、一人ひとりの気持ちを受け止め理解しようと努力している。また利用者の得意分野(梅干・漬物の漬け方、三味線など)で力を発揮できるような場面作りや声掛けを行い、互いに支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>過去の生活歴や家族からの情報をもとに、一人ひとりの意向の把握に努めている。できる限り本人の思いや願いを汲み取るよう努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向を伺い、サービス担当者会議で意見を出し合い、職員全員で介護計画を作成しているが、主治医など関係者の意見が記載されていない。</p>		<p>医師や関係者の意見を反映し、個別的で利用者本位の具体的な介護計画書を作成することを期待したい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月に1回定期的に行うとともに状態が変化したとき随時検討、見直しを行なっている。またモニタリングも行なっているが、その記載が次の計画立案に向けて大まかである。</p>		<p>本人や職員、関係者が期間にとらわれず、達成できるような目標を立てることが重要である。また、達成状況を確認することで、更なる計画の充実に向けての取り組みを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関や利用者が希望する医療機関の受診に家族が同行できない場合や希望する外出支援の送迎は自主サービスとして柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医やなじみの医師との信頼関係を尊重し、家族が同行できない場合は職員が受診介助を行なっている。夜間・緊急時の対応については、ホーム連携医の往診や受診を受ける体制ができています。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に同意書が交わされている。重度化した場合は協力医療機関へ搬送できる体制となっている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導時などやさしい声掛けがなされており、プライバシーを傷つけないような態度で接している。個別ファイルは事務室の棚に保管されているが、施錠は行なわれていない。各種連絡ノート・日誌なども、誰もがみれる場所に置かれており個人情報の取り扱いが適切ではない。		各種連絡ノートや日誌などの保管場所の改善や個別ファイルなどの個人情報を施錠付きのキャビネットに保管し、全ての職員が個人情報保護法の理解に努め、個人情報の漏洩防止の徹底が望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の体操や基本的な一日の流れはあるが、その日の利用者の思いや希望を聞きながら過ごしている。買物や散歩など、希望に沿った対応で、利用者のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じ食事を同じテーブルで摂りながらその人の摂取状況に応じた声掛けなどにより対応している。また食事の準備や後片付けも利用者の能力に応じ手伝ってもらっている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回である。利用者の体調や希望に合わせてシャワー浴を行ったり利用者のその日の気分や希望に添った入浴もできるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下拵え、盛り付け、畑作りや習字、生花など本人の得意としていることや、昔からの経験を活かし本人の能力が発揮できるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1、2回買物等へ出掛けたり毎日、犬や豚の餌やりに出たり散歩したりなど外出する機会は多い。また、毎月1回外食でファミリレストランへ出掛けるなど外出の機会を大切にしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず玄関にセンサーが設置してあり職員が気づく仕組みになっている。外出傾向のある利用者には、職員の見守りで対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力も得ながら避難訓練を行なっている。また、消火器と避難経路の点検は年に1回行なっている。避難場所も周りが広々とした空間になっている。安心であるが、夜間想定避難訓練の実施や地域の協力を得るまでには至っていない。災害時(地震・水害・・・)マニュアルが準備されていない。		火災・非常災害マニュアルの整備や火災以外での避難訓練も実施し、日々地域の協力を得られるように働きかけることが大切である。また、職員配置が手薄(夜間)になる時間帯を想定した訓練・マニュアル作成が不可欠である。利用者と家族の安心が得られるよう今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量を個々に記録し把握している。栄養士による食事のカロリー計算や栄養価計算は行われていないが、医師からその人の疾病や状態に合った食事内容、調理方法のアドバイスを受け、必要十分な栄養摂取が行えるよう取り組んでいる。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には数人で座れるソファを配置し、テレビを見たり皆が集えるように工夫している。利用者製作の作品を共有空間に飾り、家庭的な雰囲気に配慮している。また、居間には自然採光を取り入れ、眺めのよいウッドデッキがあり心地よく過ごせる工夫がある。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の必要物品は、すべて利用者・家族が持ち込まれた物で、テレビ、筆筒、仏壇など慣れ親しんだ数々の物が配置され、それぞれ個性的で居心地よく過ごせる工夫がなされている。		